

第4学年 国語科 授業構想シート

授業者 宮脇 隼

本実践の主張点	作品に登場するアイテムを分類することで、その効果に着目し、細部まで読み味わうための見方・考え方を働かせ、汎用性をもった読みの力を育むことができるだろう。
---------	--

1. 単元名 アイテムの効果をとらえて読もう

2. 4年B組の子ども

<p>本学級の子どもたちは、「一つの花」では【比較】に焦点を当てた読み取りを行い、「ごんぎつね」では【変容】に焦点を当てた読み取りを行ってきた。その際、思考チャートを使って叙述に書かれている事実を整理し、それをもとに自己の読みを形成してきた。また、どちらの読み取りにも必ず読みの手がかりとなるアイテムが存在していることに気がついた。「一つの花」では、一輪のコスモス、おにぎり、高い高いなどを比較することで登場人物の心情を読み取り、「ごんぎつね」では、いわし、くり、松たけなどの変容をきっかけとして登場人物の心情の変容を読み取ることができた。また、一番重要なアイテムを問うことで、出来事や結末のきっかけとなるアイテムに注目し、作品全体の構造にも目を向けることができた。</p>

3. 何ができるようになるか

探究力	想像的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を養い、日常生活における人との関わりの中で、国語を正確に理解したり適切に表現したりするとともに、新たな考えを想像する力。
省察性	テキストに書かれている言葉や自他の発言、または問題解決の過程や結果を振り返りながら、学級や個人の問題解決について調整したり、改善したりしながら問題解決の質を高める資質・能力。

4. 何を学ぶのか

① 単元の目標

<p>文学作品に登場するアイテムに着目し、その効果を捉えて分類することで、細かな心情の変化を想像し、文学作品の構造に目を向けることで、自己の読みを変容させることができる。</p>

② 教材の価値

<p>登場人物を知るためのアイテム、設定を読むアイテム、ストーリーを展開するアイテムなど、文学作品には作者が意図的に配置したアイテムが登場する。そのアイテムは、作品に奥行きをもたせ、より作品を読み味わうために欠かすことができない。しかし、本教材のアイテムの役割を理解することは難しい。「なぞなぞ」「よもぎの葉」など、予期せぬアイテムの登場が読者をより不思議の世界へと誘っているように感じられる。これらの予期せぬアイテムの効果を【分類】し捉えることが、読むための視点となり、この作品を読み味わうことにつながり、活用させたい見方・考え方となる。</p>
--

5. どのように学ぶのか

①単元における授業づくりの「しかけ」

探究力を育む 主 : 主体 協 : 協働 活 : 活用	省察性を育む 気 : 気付く 決 : 決める 動 : 動く
主 作品を読むための視点を与え、その効果を考えることで作品を読み味わう。(アイテム) 協 思考ツールを使い、読み取ったことを可視化、共有化し、子どもが協働して学ぶことができるようにする。 活 アイテムを通して、既習の教材と同じ課題を問うことで、これまでの学習を活用して課題を解決できるようにする。	気 文学作品に登場するアイテムに着目し、アイテムの効果を捉えながら分類することで、アイテム一つ一つに作者の意図があり、役割があることに気づくようにする。 動 アイテムに着目した視点で他の文学作品を読み、新たな気づきを交流し、文学作品を読み味わうための視点のよさを実感できるようにする。

②学習内容を理解し、資質・能力を育成するための学習過程

単元計画（全9時間） 本時 5/9 第1次 物語のアイテムってなんだろう？（教材：「一つの花」「ごんぎつね」） ①「一つの花」「ごんぎつね」を読み取るためのアイテムを見つけよう。（知） ②作者は、どんな考えでこのアイテムを作品に入れたのだろうか。（思） 第2次 アイテムの効果を考えよう。（教材：「初雪のふる日」） ③「初雪のふる日」からアイテムを見つけよう。（知） ④女の子はどんな子？ うさぎはどんなうさぎ？ アイテムで考えよう。（思） ⑤この作品で、1番重要なアイテムはどれだろう？【本時】（思） ⑥アイテムを分類しよう。（思） ⑦アイテムの効果を考えよう。（思） 第3次 アイテムの効果をとらえて読もう。（教材：「白いぼうし」） ⑧アイテムの効果をとらえて分類しよう。（知） ⑨アイテムをとらえて読んで気づいたことを交流しよう。（知・主）

6. 何が身に付いたか

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
評価規準	・様子や行動、気持ちや性格を表すアイテムに着目し、他の学習で活用し、文学作品を読むための語彙を豊かにしている。【(1)オ】	・登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、アイテムに着目し、その効果を考えながら読んでいる。【C(1)エ】	・アイテムに着目し、進んで読んで感じたことを伝え合い、他者の読みを共有し、一人一人の考えに違いがあることに気づいている。

国語科学習指導本時案

授業者 宮脇 隼

日時：2020年12月15日（火）第6校時（14：35～15：20）

対象：第4学年B組 30人

本時の主張点	アイテムの効果に着目することで文学作品の構造を読み取る見方・考え方を働かせ、細部から文章全体を捉える読みの力を育むことができるだろう。
--------	---

1. 本時の構想と学習課題について

文学作品には、作者が意図的に配置しているアイテムが数多くある。どのアイテムにも、作者の意図があり、作品に登場するアイテムの中で意図されないものは存在しないと言ってもいいだろう。この作品にも、そんなアイテムが多数登場する。不思議の世界へと誘うアイテム、主人公の状況を好転させるアイテム、人物像を深めるアイテム、時代背景を表すアイテムなどがある。本時では、「最も重要なアイテム」を問う。既習教材の「ごんぎつね」でも同様の問いを考えさせた。その際、本学級の子どもたちの考えは「うなぎ」と「火縄銃」に分かれた。子どもたちは、【出来事のきっかけ】と【結末のきっかけ】と話していた。本時でも、子どもたちはきっかけとなるアイテムに目を向けるだろう。これらのアイテムを分類し、それぞれの効果に目を向けさせ、文学作品の構造を読み取らせたい。アイテムという視点を与え、作品をより読み味わうことができた実感することで、子どもたちの読みの力が育っていくと考えている。そして、その読みの力は他の文学作品を読む際に生かされ、子どもたちの読書をより豊かなものにしていくだろう。

2. 本時における探究の質を高める場面と授業づくりの「しかけ」について

本時における探究の質を高める場面は、「重要なアイテム」の効果を考えることから文学作品の構造へ目を向けていく場面である。ここで重要となるのは起承転結の構造である。出来事のきっかけを承、結末のきっかけを転と考えることで、文学作品の構造に目が向き、これまでの読み取りが一般化されていくであろう。そのための「しかけ」となるのは、効果に着目してアイテムを視覚的に分類することである。そのために、アイテムの位置関係を文章全体で把握できるような板書や掲示を行う。

3. 本時における評価活動について

本時の終末場面においては、子どもによる振り返り活動を行う。子どもの振り返りの中から、本時のねらいに迫るものを取り上げ、価値づけていく。そうすることで、アイテムの効果に着目することで文学作品の構造に目を向けることができる見方・考え方を学級全体で共有させたい。そして、他の文学作品でも見方・考え方を働かせ、アイテムという細部から、文章全体を深く読むことができるという実感を持った読みの力を育みたい。

4. 本時の目標

アイテムの効果を捉え、文学作品の構造を読み取ることができる。

5. 本時において働かせたい見方・考え方

くらべる つなげる まとめる わかる 予想する 見方を変える

6. 本時の展開

学習活動と予想される子どもの反応	留意点・評価
<p>1 前時までを振り返り、本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 一番重要なのはどのアイテムだろう？ </div> <p>2 一人学びをし、ノートに考えを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「石けり（の輪）」「雪」：出来事のきっかけ ・「歌」「よもぎの葉」「なぞなぞ」：結末へのきっかけ <p>3 全体で考えを交流する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> </div> <p>4 本時の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語が変化するきっかけには、関係するアイテムがある。 ・他の作品にも、物語を変化させるアイテムがあるかもしれない。 	<p>【授業づくりの「しかけ」】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の文学教材でも、考えた課題を設定することで、学習の見通しをもたせることや、他の文学教材とのつながりを意識させる。 ・選択肢のある課題を設定することで、他者の考えを共有し、自己の考えと比較・関連させやすくする。 <p>・アイテムの位置関係を全文掲示し、文章構造を意識しながら、アイテムの効果に着目して分類できるようにする。</p> <p>・他の文学作品で読み取った重要なアイテムとその効果も掲示することで、出来事のきっかけを承、結末のきっかけを転（結）と考えることで、文学作品の構造に目が向き、これまでの読み取りが一般化できるようにする。</p> <p>【思】登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、アイテムの効果に着目し、文学作品の構造を読み取っている。</p> <p>【C（1）エ】</p>

各教科・領域において習得した知識の活用・発揮が促され、互いの探究のプロセスが充実していくイメージ

第4学年 国語科 指導者：宮脇 隼

単元名：「アイテムの効果をとらえて読もう」

①学級活動「みんなが参加する『フリートーク』をしよう」

- ・毎日の朝の会で、友達から出た意見をもとに、テーマに沿って「考える技（思考ツール）」を活用しながら分類し、まとめている経験が国語科における**情報収集のプロセスを充実させる。**
- ・「考える技（思考ツール）」にまとめたものから学級の様子や考えを読み取り、みんなで参加できるフリートークを目指す経験が国語科における**課題解決のプロセスを充実させる。**

情

課

問題解決「国語科における見方・考え方を働かせて、文学作品を読み取ろう」

②国語科「一つの花」

- ・登場人物の心情、場面の变化を読み取るために、アイテムの対比をするという知識が、国語科における**課題設定のプロセスを充実させる。**

鑑

鑑

③国語科「ごんぎつね」

- ・登場人物の心情の変化を読み取るために、アイテムの役割を考えると知識が、国語科における**課題設定のプロセスを充実させる。**

鑑

鑑

④国語科「初雪のふる日」

- ・登場人物の心情の変化や物語の設定を読み取るために、アイテムには役割や効果があるという知識が、国語科における**課題設定のプロセスを充実させる。**
- ・アイテムや文学教材を手がかりにすることで、文学作品の構造を読み取れるという知識が、国語科における**情報収集のプロセスを充実させる。**

探究力